NO HATE シンポジウム



※本シンポジウムは、中央図書館1階で開催する「NO HATEブックフェア」との連続企画です。





「差別と偏見の現場を取材して ―ヘイトスピーチは社会の何を壊しているのか」

安田浩一 *Koichi Yasuda*

週刊誌記者を経てフリーランスに。現在は主にヘイトスピーチ、外国人労働者に関しての取材をしている。受賞作『ネットと愛国』『地震と虐殺1923-2024』他、『「右翼」の戦後史』『ルポ 差別と貧困の外国人労働者』『ヘイトスピーチ』『団地と移民』など著書多数。



「ヘイトの政治に立ち向かう ―平等な私たち」

ミリュ *Miryu*

人権運動サランバン常任活動家。人間の尊厳に投げかけられる問いに正直に答えたいという思いから、居住権、セウォル号事件、差別禁止法などに関する活動を始め、21年目に入る。



「差別禁止法を今すぐ制定せよ」「断食闘争45日目」

[日時] 2026年**11月11日**(水) 17:30-19:30

[場所] **上智大学四谷キャンパス 6号館101教室**（対面のみ・記録用のみの録画あり）

[使用言語] 日本語・韓国語（通訳あり）

[対象] 高校生、大学生、大学院生、一般の方、研究者

現在、国内外で急速に移民や外国にルーツがある人たちに対する「ヘイト」が広がっています。これは創立当初からグローバルな学問共同体として発展してきた上智大学にとっても極めて深刻な脅威です。このシンポジウムでは、排外主義やレイシズムの問題に日本と韓国で向き合ってきた講師をお招きし、法律ですべきこと、そして社会のなかで私たち一人ひとりにできることを考えます。

[司会・趣旨説明] 中野晃一（上智大学教員／IGC所員）

[コメント] 稲葉奈々子（上智大学教員／IGC所員）/ 権香淑（上智大学教員／IGC所長）

[主催] 上智大学グローバル・コンサーン研究所
[問い合わせ先] i-glocon@sophia.ac.jp

Sophia Open Research Weeks 2026 11/5 thu - 11/23 mon